

## ローマ人への手紙15章4節 「希望の神」

### 1A 聖書にある希望

1B 私たちを教える聖書

2B 忍耐

1C アブラハムの例

2C シメオンの例

2B 励まし

1C アブラハムのしもべの例

2C 聖霊による慰め 13

### 2A 希望の神

1B 忍耐の神

2B 励ましの神

3B 信仰による喜びと平和

4B 聖霊による保証

## 本文

ローマ人への手紙 15 章を開いてください。私たちはローマ人への手紙の最後に差し掛かってきました。来週、一節ずつ見ていきますが、今朝は 4 節に注目したいと思います、「**かつて書かれたものはすべて、私たちを教えるために書かれました。それは、聖書が与える忍耐と励ましによって、私たちが希望を持ち続けるためです。**」

パウロは、教会の人々が思いを一つにしていなさいという勧めの中で、希望について語りました。それは神とキリストに対する希望であり、主がまた来られることについての希望です。私たちには希望があるから、今の時を互いに励まし合い、また忍耐し合いながら生きていくことを勧めています。迫害が強くなって、従来ユダヤ教に戻っていった信者たちに対して、希望を捨ててはならない、そしてそのために集まることをやめないで、励まし合いなさいと勧めています。「ヘブル 10:23-25 約束してくださった方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白し続けようではありませんか。24 また、愛と善行を促すために、互いに注意を払おうではありませんか。25 ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。」

### 1A 聖書にある希望

1B 私たちを教える聖書

パウロは、ローマ人への手紙を書くにあたって、他の手紙と同じように、旧約聖書からの引用を

数多く行っています、今朝の本文の直前 3 節でも、キリストについての預言が詩篇にあります。それで、「かつて書かれたものはすべて、私たちに教えるために書かれました。」と言っています。

キリスト教会の中で、旧約聖書はほとんど教えないということをしばしば聞きます。これは、本当に残念なことだと思います。使徒たちの教えは、まさに旧約時代に神が聖徒や預言者に対してくださった教えに基づくものですから、旧約聖書を見ずして新約聖書がないわけです。そして、「イエス・キリストが信仰の対象だから、旧約聖書はそれほど重要ではない。」との意見も聞きます。これもまた、非常に大きな過ちであり、パウロがテモテ第二 3 章 16 節で、「聖書はすべて、神の靈感によって書かれたもの」と言った聖書は、旧約聖書のことを指していますから、神の息が吹き込まれている旧約聖書がそれほど重要ではないというのは、深刻な過ちです。そしてイエスご自身が、旧約聖書にご自身が証しされていると宣言されたのです。「ヨハ 5:39 あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。その聖書は、わたしについて証しているものです。」イエス様は、新約聖書から始まったのでも、ましてや福音書だけでもありません。

もう一つ、「旧約聖書はイスラエルの民に対するもので、教会は新約聖書だ。」というものもあるんですね。意外にも、聖書は神のことばだと信じる人々に、こうした考えがあり、「これは、イスラエルに対して書いたものだ」として、そこから異邦人の信者には関わりがないかのように語る傾向さえあります。これも間違っています。「私たちに教えるために書かれました。」と言ったパウロは、もちろん異邦人信者を含めて、教会に対して書いているのです。イスラエルへの約束はイスラエルに対するものですが、同時に、異邦人信者もそこから多くを教えられ、励ましを受けます。

## 2B 忍耐

そこで「聖書が与える忍耐と励まし」というのを、例をとって見ていきたいと思えます。まず、「忍耐」ですが、これは、「困難な中でなおも前に進んでいく姿」のような意味合いを持っています。単に我慢しているのではなく、耐えてじっとしている。それでも、主から命じられたことを忠実に行っていく、という意味合いがあります。英語では、patience ではなく perseverance です。日本語では「堅忍」という難しい言葉があります。堅は、堅いという感じで、信仰に堅く立つということです。そして忍は耐え忍ぶことです。信仰に堅く立つて、耐え忍びます。

## 1C アブラハムの例

私たちの信仰の父、アブラハムのことを思います。彼は、神から、あなたが大きな国民になると約束を受けて、それでまだ知らない土地に行くように命じられました。75 歳の時にカナンに着きました。そこに着いても、「あなたの子孫が、ここを所有する」と約束されますが、自分が所有するわけではないし、また、子孫といっても、自分の子さえ生まれていない状況です。結局、約束の子が生まれたのは、彼は 100 歳の時です。したがって、25 年後にようやく、その約束の実現のごく一部を垣間見たということになります。バイブル・カフェは、ずっと毎週、人が来てくれていました

が、ここ一か月以上、人が来ていません。主が何かをされているかもしれないと信じています。不安になることも、気落ちもしていません。けれども、私たちは、一か月という期間でさえ、不安になったり、気落ちしたりしますね。アブラハムは、25年間待ったのです。彼は、神と神の約束に対する信頼があって、その中で耐え忍んでいったのですね。

そして約束の地については、生前において全く自分の目で見ることはありませんでした。サラの墓のためにヘブロンで土地を購入したのみです。それでも、信じていました。「ヘブル 11:13 これらの人たちはみな、信仰の人として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるか遠くにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり、寄留者であることを告白していました。」これが、忍耐する態度です。つまり、信仰をフルに、十分に働かせるのです。忍耐というと、我慢すると受け止められがちですが、その反対で、約束のものを喜び迎えているので、今の苦しい時も、ある意味、喜びをもって生きられるのです。

### 2C シメオンの例

こうして、ユダヤ人の父、またキリスト者の信仰の父アブラハムの姿を見ましたが、その約束がキリストにあって実現するのだとずっと信じてきた人が、福音書の中に出てきます。シメオンです。イエス様がお生まれになり、両親がこの子を神に献げるためにエルサレムに上りました。ルカの福音書に彼のことが書いているので、そのまま読んでいきますね。「2:25-30 そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい、敬虔な人で、イスラエルが慰められるのを待ち望んでいた。また、聖霊が彼の上におられた。26 そして、主のキリストを見るまでは決して死を見ることはない、聖霊によって告げられていた。27 シメオンが御霊に導かれて宮に入ると、律法の慣習を守るために、両親が幼子イエスを連れて入って来た。28 シメオンは幼子を腕に抱き、神をほめたたえて言った。29 「主よ。今こそあなたは、おことばどおり、しもべを安らかに去らせてくださいます。30 私の目があなたの御救いを見たからです。」いかがでしょうか、彼は生涯、イスラエルが慰められることを待ち望んでいました。ついに、その御子(おこ)の姿を見て、「しもべを安らかに去らせてくださいます。」と言わしめたのです。ずっと待ち続けて、つまり忍耐していたのです。

### 2B 励まし

そして次の「**励まし**」を見たいと思います。これは、慰めとも訳すことのできる言葉です。今のシメオンも、深い慰めを受けていますね。忍耐は励ましや慰めと隣り合わせのことばです。興味深いのが、このギリシア語です。パラクレシス(παράκλησις)という「そばにいて」という「パラ」と、呼び出すという「カレイン」という言葉が合わさったものです。そうです、これは、聖霊が「もうひとりの助け主」と呼ばれた時の「助け主」または「慰め主」と訳されているのと、つながっている言葉です。励ましや慰めは、そばにいて助けてくれるのです。聖霊ご自身の場合は、まさにイエスご自身がそばにおられるようにして下さる方であり、まだ見ぬイエス様に、霊的に今、そばにいるようにして下さっています。

### 1C アブラハムのしもべの例

聖書からは、今、アブラハムのしもべがいます。創世記 24 章ですが、そのしもべの名は 15 章 2 節にあり、ダマスコ出身のエリエゼルです。エリエゼルの名の意味は、「神は我が助け」であります。彼は、イサクの妻を呼び寄せるために、アブラハムの兄弟ナホルの町のある、アラム・ナハラタイムまで行きました。ユーフラテス川とティグリス川の間の上流地域です。そばに、かつてアブラハムが父テラと共に滞在したハランがあります。イスラエルから 900 キロぐらいあります。

そこに親戚のベトエルの家がありました。その娘リベカです。兄に後にヤコブの義理の父になるラバンがいます。エリエゼルは、イサクのことを語りました。そして、リベカを呼び寄せました。「この人と、一緒に行くか。」と尋ねると、「はい、行きます。」と素直に答えました。そしてこの言葉があります。「創 24:59 そこで彼らは、妹リベカとその乳母を、アブラハムのしもべとその従者たちと一緒に送り出した。」長い長い、900 キロの旅をらくだの上に乗って行ったことでしょう。たった一泊二日しか滞在しなかったエリエゼルの信頼し、まだ見ぬイサクと結ばれるために、自分の家を離れたのです。どれだけさみしい思いをすることでしょうか。しかし、想像するに、エリエゼルは、その名のごとく、神にあって助けて言ったと思います。何よりも、イサクと父アブラハムのことを何度も何度も語り、リベカに寄り添って、その道中を守っていたと思います。

### 2C 聖霊による慰め 13

これが、聖霊ご自身の働きです。聖霊は、私たちのそばに呼ばれて、寄り添い、イエス様のことを指し示して励まします。主ご自身にお会いするという希望を語り、私たちの今の困難を耐え忍ぶようにしてくださるのです。そして、この聖霊の励ましによって、私たちが集まる時に互いに励まし、慰め、その信仰を建て上げるように召されているのです。

ローマ 15 章 13 節を見てください、「どうか、希望の神が、信仰によるすべての喜びと平安であなただがたを満ちし、聖霊の力によって希望にあふれさせてくださいますように。」私たちの神は、希望の神です。約束を与え、希望を与えてくださいます。そして、その間、信仰を私たちが十分に働かせることによって、喜びと平安で満たされます。喜びと平安は、たとえ目で見えなくとも、それでも、神が言われているという理由だけで、約束を迎え入れ、信じていることによって初めて与えられるのです。御言葉の約束によって心励まされ、建て上げられます。

そして、希望は聖霊のくださるものです。聖霊の力によって、希望にあふれることができます。アブラハムが、イサクが生まれていないのに、それでも神に栄光を帰するほどの信仰が与えられていましたが、約束の子が与えられるという希望にあふれていたのです。

### 2A 希望の神

希望というのが、人や生き物にとってどれほど大切なものか、週報にも記しましたが、こういった

ことを言った人がいます。「人は、40 日間、食べなくとも生きられ、3 日間、飲まなくとも生きられ、8 分間、息をしなくとも生きられるが、1 秒たりとも、希望がなければ生きられない。」希望はそれほど身近なもので、なくてはならないものです。

1950 年代に、カート・リッチャーというハーバード大教授が、ドブネズミを使った実験をしました。水の中にドブネズミを入れて、どれだけ泳げるか試したのです。15 分ぐらいで溺死しました。次の事件は、ドブネズミが溺れる直前に、引き上げて、休ませて、それからまた水の中に入れました。どのくらい生きられたでしょうか？情報がまちまちですが、37 時間とも 60 時間とも、数日ともありました！<sup>1</sup>なぜでしょうか？「また助けられる」という希望があったからです。私たちは、息を吸っている以上に、希望によって生かされているのだということが分かるでしょう。私たちは、主が再び来られるという希望によって、生きているのです。この一瞬、一瞬を生かされているのです。

## 1B 忍耐の神

本文の次の節、5 節には、私たちの神は「**忍耐と励ましの神**」と紹介されています。聖書によって、私たちは忍耐と励ましが与えられますが、その源は神ご自身です。

そして神ご自身が、私たちに忍耐して、決してあきらめなかったことを思います。私たちは、これまで神の約束を忍耐して待つことを見ていきましたが、それ以前に、神ご自身が、私たちが神に立ち返り、神を信じることができるようにするために、私たちが待っていてくださいました。ガラテヤ書には、「4:4 しかし時が満ちて、神はご自分の御子を、女から生まれた者、律法の下にある者として遣わされました。」とあります。神は、アダムが罪を犯した直後から、女の子孫が、蛇の子孫のかしらを打ち砕くとの約束を与えられて、そしてそれがアブラハムの子孫に受け継がせるようにし、そしてダビデの世継ぎの子が現れるようにしてくださいました。

それだけでなく、主は、生まれてからずっと神に背を向けて来たのに、信仰によってこの方に立ち返る時までずっと待って来てくださったのです。それはあたかも、遠い国にいった放蕩息子が戻ってくるまで、家の外で待っていた父のようであります。また、弟子になってからもイエス様は私たちのために忍耐しておられます。あまりにも理解が遅いからです。最後の夜、ピリポが、私たちに父を見せてくださいと願いました。イエス様が言われました、「ヨハ 14:9 ピリポ、こんなに長い間、あなたがたと一緒にいるのに、わたしを知らないのですか。わたしを見た人は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか。」ずっといたのに、分からなかったのです。また主がよみがえられてから、エマオの途上に行く弟子たちにも、こう言われました。「ルカ 24:25-27 ああ、愚かな者たち。心が鈍くて、預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち。26 キリストは必ずそのような苦しみを受け、それから、その栄光に入るはずだったのでありませんか。」27 それからイエスは、モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自分につ

---

<sup>1</sup> <https://youtu.be/uSOSv38OWz4>

いて聖書全体に書いてあることを彼らに説き明かされた。」

## 2B 励ましの神

主はこのように忍耐の神です。そして、励ましの神ですね。いつまでも共にいて、あきらめず、私たちを助け、希望に満ち溢れさせるように導いてくださるのです。今の復活の後の彼らは、イエス様を見て、喜びにあふれました。再び、聖書全体からご自分について書かれていることを説き明かされ、今度は、罪の赦しを得させる悔い改めを宣べ伝えるよう、命令を出されたのです。希望に満ちあふれた彼らは、「24:52-53 彼らはイエスを礼拝した後、大きな喜びとともにエルサレムに帰り、53 いつも宮にいて神をほめたたえていた。」とあります。

## 3B 聖霊による保証

彼らは天にイエスがおられる間、聖霊に満たされて喜びにあふれていました。聖霊によって主は、今、私たちと共におられて、弟子たちと同じように天から同じ姿で、主が来られることを喜びながら待ち望んでいるのです。聖霊は、来るべき贖いの証印であり、保証であるとエペソ1章に書かれています。主が私たちに、必ず救うという太鼓判、証印を押して下さり、そして、保証金として、聖霊をくださったのです。「エペ 1:13-14 このキリストにあって、あなたがたもまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞いてそれを信じたことにより、約束の聖霊によって証印を押されました。14 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。このことは、私たちが贖われて神のものとなされ、神の栄光がほめたたえられるためです。」

私たちの世界はますます生きづらくなっています。ある哲学者が、コロナ禍の後の世界は、コロナ前の世界に戻ることができると思っはいけないと言っていました。人間の哲学者がそう言っていますが、なおさらのこと、もはや元通りにはならないのです。私たちは知っています、世はもっと悪くなることを。困難がありますが、しかし忍耐と励ましによって希望に満ち溢れることができます。